

令和 6 年能登半島地震における 1.5 次避難所のソーシャルワーク記録に関する考察

*林 真紀^{1,2}、原田 とも子³、河原 久美子² (1. やわたメディカルセンター、2. 石川県医療ソーシャルワーカー協会、3. 日本医療ソーシャルワーカー協会)

【目的】医療ソーシャルワーカー(以下、MSW)協会では、過去の災害時に記録書式を作成したが、1. 5 次避難所では活用出来なかった。支援者が繋ぐ避難所では、質の平準化の為に記録が重要で、その改良の過程から災害時に必要な記録について考察することを目的とした。

【方法】1. 5 次避難所では団体毎に異なる書式を用いており、MSWは情報を得て面接し、アセスメントシートを記載した。9ヶ月の活動期間中、活用した記録及び資料より、避難所における記録について考察した。

【結果】アセスメントシートは記載項目に漏れや誤り、自由記載はばらつきがみられた。入所が長期化し、加筆修正が増え、基本情報様式を追加した。退所時の情報提供は、団体共通の様式がなく、MSW独自のソーシャルワーク・サマリーを作成し運用した。

【結論】支援を繋ぐ避難所では、正確な情報に基づくアセスメントは必須で、多職種協働で支援が展開されることから、MSWは外部環境と連動し、記録の改善を図ったと考える。関係機関へ繋ぐソーシャルワーク・サマリーは、正確な情報と支援経過を要し、今後、避難所におけるMSW支援の質の平準化に、アセスメントシートの開発も必要である。

Consideration of social work records at the 1.5th evacuation shelter during the 2024 Noto Peninsula earthquake

*MAKI HAYASHI^{1,2}, TOMOKO HARADA³, KUMIKO KAWAHARA² (1. やわたメディカルセンター、2. 石川県医療ソーシャルワーカー協会、3. 日本医療ソーシャルワーカー協会)